

氏名	増田匡裕 (ますだ まさひろ)
職名	教授
専門分野	社会心理学、対人コミュニケーション論
学歴	アメリカ合衆国アイオワ大学(The University of Iowa)大学院コミュニケーション学研究科博士課程修了
学位	PhD (Communication Studies), The University of Iowa
担当科目	(学部) 人間関係論、発達心理学、こころの科学、情報処理演習、教養セミナー、保健看護研究Ⅱなど (大学院) 保健看護情報統計学、健康測定評価論、特別研究など
研究テーマ	1. 周産期のグリーフケアとソーシャル・サポート 2. 親しい対人関係(夫婦・恋愛関係・友人関係)の発達・維持・解消における対人コミュニケーション 3. 喪失体験の意味生成過程 4. 医療従事者と患者・家族の関係など、専門家と一般人の間のコミュニケーションの諸問題
所属学会	(国内) 公益社団法人日本心理学会、日本社会心理学会など (海外) National Communication Association (全米コミュニケーション学会)、International Association for Relationship Research (対人関係研究の国際学会)など
研究業績	<p>&lt;著書&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 和田実、増田匡裕、柏尾眞津子、対人関係の心理学—親密な関係の形成・発展・維持・崩壊、北大路書房。2016.</li> <li>2. 和田実、増田匡裕、柏尾眞津子、伊藤君男、心理学入門—こころと行動の科学、川島書店。2008.</li> <li>3. Masuda, Masahiro. Perspectives on premarital postdissolution relationships: Account-making of friendships between former romantic partners. In M.A. Fine &amp; J.H. Harvey (Eds.), <i>Handbook of divorce and relationship dissolution</i>. Mahwah, NJ, USA: Lawrence Erlbaum Associates. 2006.</li> <li>4. Masuda, Masahiro, &amp; Duck, Steve. Issues in ebb and flow: Management and maintenance of relationships as a skilled activity. In J.H. Harvey &amp; A. Wenzel (Eds.), <i>A clinician's guide to maintaining and enhancing close relationships</i>. Mahwah, NJ, USA: Lawrence Erlbaum Associates. 2002.</li> </ol> <p>他1編</p> <p>&lt;著書(翻訳及び一般書)&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. R.J. スタンバーグ、K. ヴァイス(著)、和田実、増田匡裕(訳)、愛の心理学、北大路書房。2009.</li> <li>2. J.H. ハーヴェイ(著)、和田実、増田匡裕(編訳)、喪失体験とトラウマ—喪失心理学入門、北大路書房。2003.</li> <li>3. 京都大学心理学教官連絡会(編)、21世紀の心理学にむかって—京都大学の現状と未来、ナカニシヤ出版。2001.</li> </ol> <p>他2編</p> <p>&lt;論文&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Masuda, Masahiro. When preceptor nurses met their preceptee and “preceptorship” at once: An ethnographic research on Japanese organizational and relational communication in localizing an unfamiliar relational term “preceptorship” in mid-1990s. <i>高知大学学術研究報告</i> 61, 199–213, 2012.</li> <li>2. 増田匡裕、不育症が夫の対人関係に及ぼす影響と夫へのサポートに対する夫婦の態度の関連性、<i>母性衛生</i> 52(4), 444–453, 2012.</li> <li>3. 増田匡裕、危機的状況におけるカップルの親密さ、<i>日本生殖看護学会誌</i> 6, 79–82, 2009.</li> <li>4. Zickmund, Suzan, Ho, Evelyn E., Masuda, Masahiro, et al. “They treated me like a leper”: Stigmatization and the quality of life of patients with Hepatitis C. <i>Journal of General Internal Medicine</i> 1(10), 835–844, 2003.</li> <li>5. Masuda, Masahiro. Meta-analysis of love scales: Do various love scales measure the same psychological constructs? <i>Japanese Psychological Research</i>, 45(1), 25–37, 2003.</li> </ol> <p>他6編、及び学会発表41件(2016年12月時点).</p>
メッセージ	<p>&lt;活動の紹介&gt;</p> <p>福岡・山口・宮崎・宮城・長野に拠点を持つ、子どもを亡くした家族と医療従事者のグリーフ(悲嘆)ケアを実践するグループ「東アジアグリーフの集い」でスタッフとして活動しています。また、高知大学在職時(2017年5月まで)には、県の少子対策課ヴォランティア「婚活サポーター」の一員として、地方における恋愛・結婚の現状の改善に取り組んだ経験もあります。</p> <p>&lt;学生へのメッセージ&gt;</p> <p>看護職にとって社会心理学とは一般的に「人間関係論」と「集団指導方法」という職場のマネジメントの学問です。私はそれをベースにして恋愛関係、特に失恋の研究を始めてから対人コミュニケーション研究に専攻を転じ、愛する人を失う経験一般へ興味を広げて、グリーフケアや対人援助の実践に関心が移ったところに、ご縁があってこの大学に来ました。恋愛の研究をして分かったことは、「『思い』があるだけでは叶わないけれども、『思い』がなければ何もない」ということです。これは「ケア」にも通じることですね。</p>
メールアドレス	masuda@wakayama-med.ac.jp